

肺癌における疫学研究

我々静岡市立静岡病院呼吸器外科では、肺癌に対する肺切除の発展とその成績向上を目標に、当院における肺癌症例について、以下の様な疫学研究(人を対象に健康に関わる要因を明らかにする研究)を行い、その詳細につき情報公開しております。

研究名：「肺癌に対する肺葉切除後の肺静脈断端血栓についての検討」

1. 研究の意義

肺は右側では上葉、中葉、下葉の3葉に、左側では上葉、下葉の2葉に解剖学的に分かれています。肺癌に対する肺切除を行う場合、癌の存在する肺葉を切除することが一般的です。近年では胸腔鏡下肺葉切除が一般的に行われており、この術式では自動縫合機(血管の切離と縫合が同時に行える器具)を用いた肺静脈切離が広く用いられています。この方法は手技が簡便ですが、肺静脈の切離断端が長くなりやすく、左肺上葉切除後の約14%で肺静脈断端内に血栓(血の塊)を認めたとの報告があります。また、肺静脈断端内の血栓は、後に脳梗塞などの動脈塞栓を引き起こす可能性があるため、早期に発見することが望まれます。私たちは上葉切除や中葉切除では肺静脈を糸で結紮し切離することで、肺静脈の断端の長さが出るだけ短くなるように心がけて手術を行っています。糸による肺静脈の結紮切離は自動縫合機による切離に比べ、肺静脈断端の長さが短くなる事が予想されますが、この方法による肺葉切除後の肺静脈断端血栓の頻度について検討した報告はこれまでありません。

そこで、静岡市立静岡病院呼吸器外科のこれまでのデータを調べ、肺癌に対する肺葉切除後の肺静脈断端血栓の頻度と予後について検討し、今後の肺癌患者さんに対する肺葉切除後の肺静脈断端血栓の診断や治療の検討に役立てたいと考えました。

2. 研究の目的

肺癌患者に対する肺葉切除後の肺静脈断端血栓について、これまでのデータを集めて、検討します。

3. 研究の方法と研究機関名

2008年1月から2016年12月までの期間に、静岡市立静岡病院にて肺葉切除を施行された症例531例において、カルテなど既存の資料のみを用いた追跡による研究を行います。

研究実施期間は2017年7月27日より1年間です。

本研究の実施については平成29年7月27日当院医療倫理審査委員会(迅速審査)にて承認されました。

4. 個人情報の保護

この研究で得られた個人情報が外部に洩れることのないよう厳重に管理致します。本研究における各患者番号を新たに付し、患者さんの氏名やカルテ番号など個人が特定できるものはデータ管理において記載されません。また、研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表いたしません。

データの保管期間に関しては、本研究が終了した後も最低 10 年間は厳重に保管させていただきますことをご了承ください。

また、本研究にデータを使用してほしくないという希望のある患者さんにおいては、ご希望に沿いたいと思いますので、以下の連絡先にご連絡いただければ、対応させていただきます。

さらに、本研究において、患者さんに、追加の費用負担は一切発生しませんし、謝礼もございません。

本研究に対するご質問、ならびに、個人情報に関する問い合わせや苦情等については、以下の窓口にて、対応させていただきます。また、本研究の研究計画書および研究の方法に関する資料の入手・閲覧をご希望される場合は、下記窓口にご連絡ください（ただし、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます）。

連絡先：静岡市立静岡病院呼吸器外科

研究代表者 三由僚

研究責任者 千原幸司

住所：〒420-8630 静岡市葵区追手町 10-93 静岡市立静岡病院 呼吸器外科

電話：054-253-3125（代表）

FAX：054-252-0010

E-mail: ryoooo344@gmail.com

本研究の相談窓口

臨床試験管理センター

電話：054-253-3125（代表）